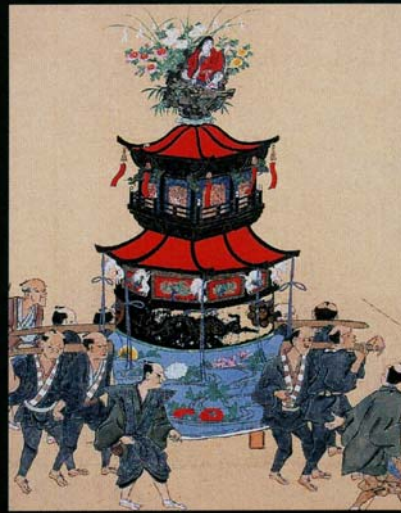




蘇鉄 (二の町)



本蝶蕪 (本町)



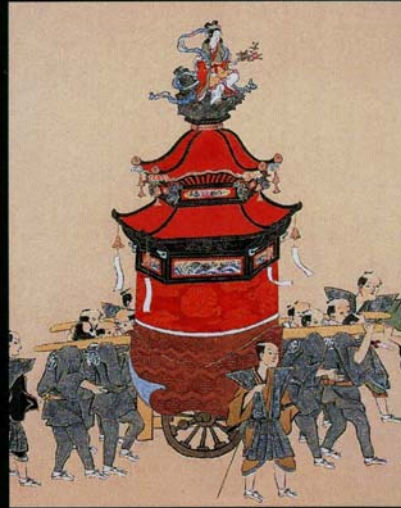
菊慈童 (宮の町)



蜜柑 (中嶋町)



猩々 (紺屋町)



西王母 (新町)



迦陵頻伽 (塩屋町)



松 (平川原町)



恵比須 (徳湊町)

《描かれた笠鉾》 妙見宮祭礼絵巻 (八代神社所蔵)

この絵巻は、平成20年八代に里帰りしたものです。妙見祭を描いた絵巻は、これまで財団法人松井文庫所蔵の絵巻が2点、八代神社の絵巻が1点確認されていました。中でも八代市立博物館の妙見祭人形模型の元となった松井文庫所蔵の青井郷秀が弘化3年(1846)に描いた絵巻が広く知られており、八代神社の彩色されていない絵巻はその下書きではないかと考えられていました。

しかし、この新発見の絵巻こそが八代神社の絵巻を元に制作された絵巻であることがわかり、青井郷秀の絵巻は、それを写して制作したものであることがわかりました。

絵巻の絵師は、松井家のお抱え絵師である甲斐良郷(1761~1829)で、青井郷秀の師にあたります。図中の笠鉾とそれぞれの笠鉾の部品の制作年などから、文化2年(1805)~文化6年(1809)の間に制作されたと考えられます。

カメラもビデオもなかった時代、年に1度しか見ることのできない祭礼の様子を精密に描いたこの絵巻の発見により、19世紀初頭の妙見祭の様子が鮮やかに甦ってきました。

(大きさ) 縦49.2cm 長さ約40m